



問 市民病院総務課 回 23 - 7852

シリーズ第55話

カゼ・RSウイルス感染の話

市民病院
小児科部長
影山里実

子どもの発熱の約9割は、カゼ・RSウイルス感染によるものです。ウイルスは、①細菌より小さく電子顕微鏡で見えない②自力では増殖できない③抗生物質が効かないなどの特徴があります。診察室でよく遭遇するウイルス感染症には、非常に多くの種類があります。ほとんどカゼウイルスには特効薬は存在しません。インフルエンザ、単純ヘルペス、水ぼうそうなど一部のウイルスに対してのみ、病気を軽くするクスリがあります。また、今冬大流行が予想されているRSウイルスは、事前に毎月注射することで症状悪化を防ぐクスリがありますが、対象はNICUに入院していた赤ちゃん限定です。このように、カゼ・RSウイルスはほとんど発症すると特効薬はほとんどありませんが、予防のためのワクチンが

いろいろあります。国内で使用できるカゼウイルスワクチンは、麻疹、風疹、ポリオ、日本脳炎、水ぼうそう、おたふくかぜ、B型肝炎、インフルエンザ（効果はほかに比べ低い）などがあります。さらに今シーズン、胃腸カゼの中で最も重症なロタウイルスに対するワクチンも発売になりました。やや乱暴な言い方をすると、「カゼウイルス感染」誰もが子どもの時に通りはかかる、避けようもない病気ですが、ワクチンを利用することで多少とも軽くすみます。国内では残念ながら自費接種のものが多くありますが、上手に利用したいものです。

ところで、原因ウイルスはいずれも確実に診断できるわけではありません。その場ですぐ診断検査できるものに、インフルエンザ、RSウイルス（保険適応は限定的）、アデノウイルス、ロタウイルス、ノロウイルス（保険適応なし）などがあります。検査率は7割前後と言われます。なお、水ぼうそう・手足口病・リンゴ病・突発性発疹などは、経過と皮疹を見ればほぼ診断可能です。しかしそのほかの大多数は血液中抗体を調べたり、特殊な検査でウイルス自体を検出しますが、はっきりした結果が出るこの方が圧倒的に少ないです。特にいわゆる夏カゼは病原体ウイルスの種類が多く、はっきりとした診断がつきにくいものです。夏場に小児科を受診し「夏カゼとしか言ってくれなかった」としても、決してヤブ医者と思わないでくださいね。

「カゼグスリ」について一言。カゼ・RSウイルス感染ですから、カゼそのものを治すクスリなど存在しないですよ。正しくは「カゼの辛い症状を和らげる」だけのクスリなのに、「カゼグスリ」を飲まないでカゼが治らないと誤解している方は大勢います。そもそも「効いたよね、早めの○○○○○」「あなたのカゼには○○」とか、誇大広告以外の何物でもないと思うのですが、製薬会社は大スポンサーなのでマスメディアは追求できないのでしょう。とは言え、私もカゼで咳が辛い時には市販の咳止めを使うこともあります。「カゼの辛い症状を和らげる」だけとは言え、上手に利用すれば便利なクスリだと考えます。

※NICU＝新生児集中治療室